

凹が拡がり、凸が生み出される宇都宮

さて、それでは今回認定されたストーリーとはどのようなものなのでしょうか？

文化財の価値は、通常、文化財個々の希少性や芸術性の高さが評価されるのですが、日本遺産は、地域に点在する指定・未指定の歴史文化資源を、民俗・風習や技術等の人の営みと共に一定のテーマで結び付け、面として特質を浮き出させることで、その地域の歴史文化の魅力を発信し、地域活性化につなげようとするものであり、本市においては、石との永年にわたる関わりの中で築いてきた、本市ならではの「大谷石文化」をテーマとしました。

縄文時代に風雨をしのいだ洞穴利用から始まり、江戸時代から始まる探石の歴史、人車軌道や軽便鉄道に

よる販路の拡大や採石需要が高まり広がる地下空間、掘り出され変幻自在に形を変え市民生活に溶け込む大谷石の活用、自然と人工が織りなす大谷奇岩群の特異な景観や本市独特の街の景観を生み出している大谷石建造物の広がり……。

そして、今も採石が営まれ、観光に人が集まり、その傍らで冷熱エネルギー利用などの新たな産業が産み出されていくダイナミックな変化が続いています。まさに「大谷石文化」の本質は、「地下の巨大な凹が大きくなればなるほど、石のまち宇都宮の魅力が凸出していく。これからも宇都宮の人々は、大谷石と共に暮らし続けることでその魅力を増していく期待をストーリーに織り込みました。



屏風岩石蔵(西蔵明治41年築・東蔵明治45年築)



渡辺家住宅(西蔵明和6年築・薬医門江戸中期築・座敷寛政38年築)



カトリック松が峰教会(昭和7年築)



日本聖公会宇都宮聖ヨハネ教会(昭和8年築)

「日本遺産のまち」として

大谷地域の活性化については、3月の定例記者会見において、市長から今後の10年を見据え、特異な景観や大谷石建築などの魅力ある地域資源を最大限に活用していくほか、切な安全対策とともに観光施設の立地誘導や産業振興を図り、大谷地区に年間120万人の来訪者を呼び戻すことを目指すとの方針が示されました。

大谷石研究会様は、平成13年の設立以来、写真集「大谷石百選」や小学生用社会科副読本「大谷石の魅力」の発行のほか、大谷石の建築物を巡るツアーの開催など多方面にわたり、大谷石の研究や魅力の発信に取り組みまれており、その継続的な活動の功績、影響力は多大なもの敬意を表するものであります。

今後は、民間の皆様のごこうした活動とより層の連携を図らせていただき、「日本遺産のまち」としてより多

くの方に大谷石の魅力を知っていただく取組に力を注いでいくとともに、本市ならではの「大谷石文化」の体験を通して、驚きと感動を伝えることができるガイドなどの人材育成や受入環境の整備に取り組み、国内外に宇都宮のファンを増やしていく取組を目指してまいります。

そして、この取組を強力に押し進めていくために何よりも頼りとなる源泉は、郷土の文化に誇りを持つ市民自らの思いであり、ファン作りの第歩は身近な市民から着実に進めていかなくてはならないと考えております。

「日本遺産のまち」として、ワクワクするような交流が生み出され、活気にあふれたまちとして今後も発展を続けていくため、ここからが正に本番です。どうぞ皆様、共によりしくお願いいたします！



旧大谷公会堂(昭和4年築)



大久保石材店(大正13年築)



大谷奇岩群

「全国石工サミットINたかはた」参加及び米沢市内散策

〈研修旅行の報告〉

NPO法人 大谷石研究会
理事 永見正明

去る10月14日土「全国石工サミットINたかはた」が山形県米沢市高島町で開催されました。大谷石研究会は塩田理事長はじめ総勢11名で参加しました。中型バスでゆったりと山形への高速道路の旅。泊1日の行程です。

高島ワイナリーでは甘口の白ワインを堪能して宿泊先へ。

一日目は、旧米沢高等工業学校へ訪問。明治四十三年に建てられたルネサンス様式の建物で、現在は山形大学に改組され重要文化財です。米沢工業会(同窓会)理事長の山崎洋二氏の案内で構内を見学しました。帝人創業者や作家の吉本隆明などがこの出身です。次は林泉寺で、上杉景勝の夫人菊姫、保科正之の娘はる姫、上杉鷹山の側室お豊などの墓が高島石などでつくられて並んでおり、中には三トンを超える大きなお墓もありました。その後、上杉神社、東光の酒蔵を見学して、そば工房へ。四五十人は入る

店ながら、たった一人で営業とのこと。「なせば成る、なさねば成らぬ何事も成らぬは人のなさぬなりけり」上杉鷹山のありがたいお言葉。その実際をこのそば屋で確認できました。塩田理事長も、そばは美味と太鼓判。ただし天ぷらには言及しませんでした。「石がすき、人がすきで、今日も無事」上杉鷹山の心に包まれた、「泊1日の旅でした。

後日、米沢の面白い事実を見つけました。米沢のABCは、アップル・ビーフ(米沢牛)・カーブ(鯉)。米沢鯉は上杉鷹山が宝暦の飢饉の時、福島から鯉の稚魚を持ってきて領民の補助食料として確立し、その後の天明の大飢饉の際の被害を最小限にしたとされます。食べられる城下町。ウコギの垣根やもつてのほかなど、かてもの(食べられる物)にこだわり自給自足を推し進め、財政破綻を五十年かけて解消した上杉鷹山は、あの合衆国三十五代大統領ジョンFケネディが「日本で一番尊敬する人物」と挙げた事実にも納得できます。

NPO法人大谷石研究会のホームページ
<http://www.ooyaishi.org/>
 コンテンツ盛りだくさん

「大谷石百選 自然美・建築美」
 (第2版 第1刷発行) 絶賛販売中

A4変形版 148頁
 2008円



石工サミット会場



六尺の石の重さは三百キロ。ツルハシで溝を切るホッキリという採石技術。ホッキリは「瓜割」と書き、ここの公園の名称となりました

● **大谷石 東西南北** ●

京都の人気喫茶店を飾る大谷石

(NPO法人 大谷石研究会広報担当 平沼 隆志)

4月中旬の土曜日午後1時少し前、京都・木屋町にある喫茶店の前に、開店を待つ客の列ができていた。1時の開店と同時に客が次々、入店。すぐに客席が埋まった。

1948年開店のこの喫茶店。大谷石の壁が印象的な外観にはレトロな雰囲気が漂う。店内は東郷青児の作品など様々な絵画や、独特な調度品が飾られ、薄めの照明と相まって少し幻想的なムードがある。

五色のゼリーで作る「ゼリーポンチ」というオリジナルメニューの魅力も加わり、ネット上でも話題の人気店になっている。

店の前を高瀬川が流れ、川岸の樹木が風に揺れる風景は京都らしく文化的な香りがする。大谷石がそんな街並みに溶け込んでいる。